

第1回 代田の街づくり学習会

《テーマ》：代田のまちづくりの現況と課題

平成25年11月6日（水）18:00～20:00
世田谷区立代田小学校 1階 図書室

平成25年11月16日（土）10:00～12:00
新代田まちづくりセンター 2階区民フロア

次 第

1．開会・主催者あいさつ

2．報告 代田地域のまちづくりの現況と課題

「平成24年度 地区街づくり計画等策定基礎調査」の結果報告

(有)大戸まちづくり研究所 代表取締役 大戸 徹

3．質疑応答

4．意見交換

5．次回以降のご案内

裏面をご参照ください。

6．閉会

【お問合せ先】

世田谷区北沢総合支所街づくり課 代田地区担当：成瀬、寺西、木村
〒155-8666 世田谷区北沢2-8-18 北沢タウンホール6階
電話：5478-8031 F A X：5478-8019

代田の街づくり学習会 開催日程

1. 日程

	テーマ	開催日時	会場
1	代田のまちづくりの現況と課題 両日とも同じ内容です。	11月 6日(水) 午後 6～8時	代田小学校
		11月 16日(土) 午前 10時～正午	新代田まちづくりセンター
2	防災街づくりの考え方と方法	12月 4日(水) 午後 6～8時	代田小学校
3	街づくりの実際例を学ぶ [事前ガイダンス] [現地見学会]	1月 22日(水) 午後 6～8時	代田小学校
		1月 25日(土) 午後 1時30分～4時	現地(太子堂出張所前集合)
4	代田の街づくりの目標と進め方	2月 19日(水) 午後 6～8時	代田小学校

2. 会場

- 代田小学校 1階図書室 代田 4-2-3 第1～4回会場
- 新代田まちづくりセンター 2階区民フロア 羽根木 1-6-14 第1回会場
- 太子堂出張所(三軒茶屋駅より徒歩4分) 太子堂 2-17-1 第3回現地見学会集合場所

3. 学習会の内容

- 第1回 (テーマ):代田のまちづくりの現状と課題
 - ・ 第1回については、同じ内容を2会場で開催します。昨年度調査を行った「街づくり基礎調査」から防災や交通安全、住環境などの代田地域の現況と課題について、詳しくご報告します。参加者からのご質問にお答えするとともに、街づくりの現状と課題などについて、話し合いを行います。
- 第2回 (テーマ):防災街づくりの考え方と方法
 - ・ 「逃げないですむまち」をめざして、個々の建物の不燃化や道路の拡幅、災害時に活動の拠点となる公園や空地などの整備を行う「防災街づくり」の基礎的な知識や実際の進め方などについて学習します。さらに、代田地域の防災街づくりについて、話し合いを行います。
- 第3回 (テーマ):街づくりの実際例を学ぶ
 - ・ 市民参加による街づくりの歴史や制度について学び、街づくりの先事例について学習します。
 - ・ 翌土曜日には、区内の代表的な街づくりの事例として、太子堂2・3丁目地区を実際に見学し、地域の街づくりに携わった方からお話を伺います。
- 第4回 (テーマ):代田での街づくりの目標と進め方
 - ・ 第1～3回の成果を踏まえ、代田地域における今後の街づくりの目標や具体的な進め方等について話し合いを行います。

代田のまちづくりの現状と課題

平成24年度「地区街づくり計画等策定基礎調査」の結果報告

平成25年11月6日・16日 世田谷区北沢総合支所街づくり課

1. 代田地域の成り立ち

戦国時代～明治

代田地域は、戦国時代末期、小田原の北条氏の滅亡(1590年)に伴った世田谷吉良家の没落後に、その旧家臣の七人衆が帰農し、現在の代田 1～3 丁目付近を開墾したのが始まりと伝えられています。江戸時代には代田村は天領となり(1695年)、幕末まで幕府代官の支配下に置かれました。明治11年(1869年)郡制により東京都荏原郡代田村になり、後に明治22年(1889年)に近在8村が合併して、東京都荏原郡世田ヶ谷村(後に世田谷町)大字代田となりました。

昭和～現代

昭和7年(1932年)東京市の区域が15区から35区に拡張された際、世田谷町は新たに成立した世田谷区に編入されました。

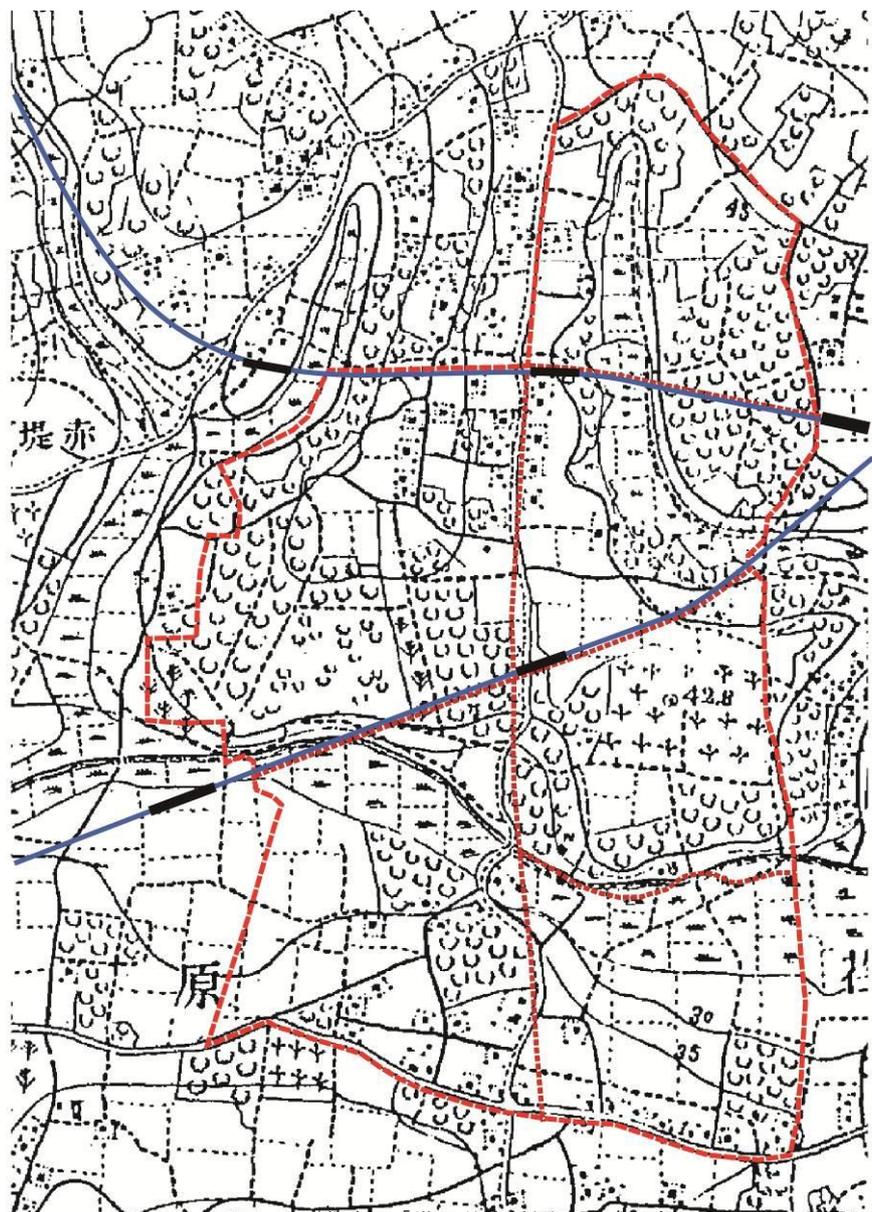
地域の大部分が長らく農地でしたが、大正12年の関東大震災以降、鉄道の開通と共に近郊住宅地に変遷する中、土地区画(耕地)整理・指定建築線制度などを活用した街づくりが実施されました。

現在の代田1・2・3・4丁目地内には、こうした経緯である程度整った道路網と街区が形成されています。

地名の由来は…「ダイダラボッチ伝説」？！

「代田」という地名の起源でもっとも有力な説は、代田6丁目の守山小学校付近に大きな足跡に似た沼地があり、それが想像上の巨人「ダイダラボッチ」の足跡との言い伝えに由来するものと言われていいます。

明治14年(1881年)頃の代田地域

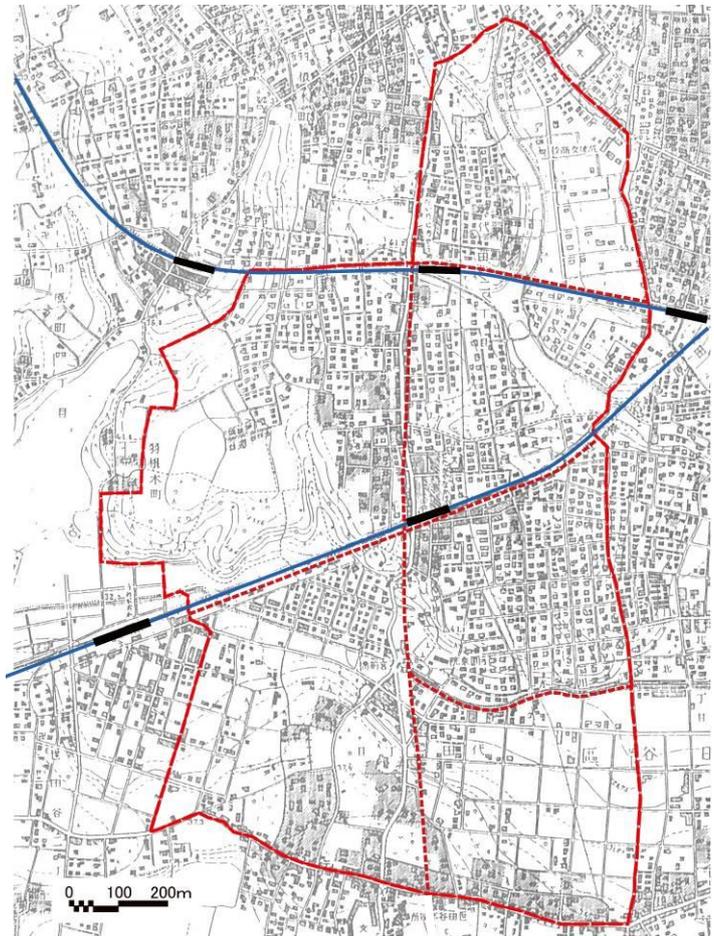


資料: 「世田谷古地図」平成4年3月 世田谷区

昭和 14 年 (1939 年) 頃の代田地域

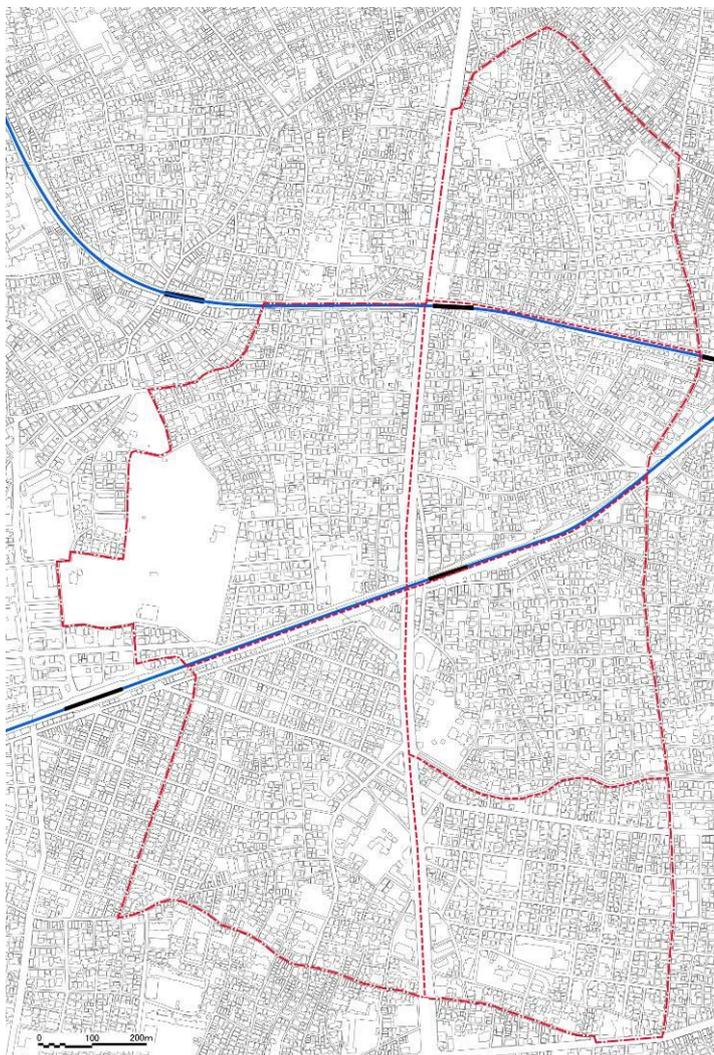
《代田地域の成り立ちに関わる主な出来事》

- 昭和 2 年 小田急線開通、世田谷代田駅 (当時は「世田谷中原駅」) 開設 ※改称は昭和 12 年
- 昭和 5 年 代田第二耕地整理組合設立 (現代田 1・3 丁目、梅丘 1 丁目地内) 施行面積 39 町歩≒39.3ha
- 昭和 8 年 井の頭線開通、新代田駅 (当時は「代田二丁目駅」) 開設 ※改称は昭和 41 年
- 昭和 8 年 指定建築線「羽根木町・代田 2 丁目 (現代田 4 丁目地内)・松原町 4 丁目」 (環状七号線西側、井の頭線予定地を含む区画整理型の建築線指定による街づくり)



資料:「世田谷古地図」平成 4 年 3 月 世田谷区

- 昭和 39 年 住居表示の実施 (代田 1~6 丁目/昭和 39.9.15)、東京オリンピック開催に合わせて、環状七号線 (中原街道~中山道間) の開通
- 平成 16 年 小田急線連続立体交差事業及び複々線化事業に着手 (代々木上原~梅ヶ丘間)
- 平成 25 年 小田急線地下線への切替・世田谷代田駅ホームの地下化・踏切の廃止 (平成 25.3.23)



資料:世田谷区土地利用現況調査 平成 23 年 世田谷区

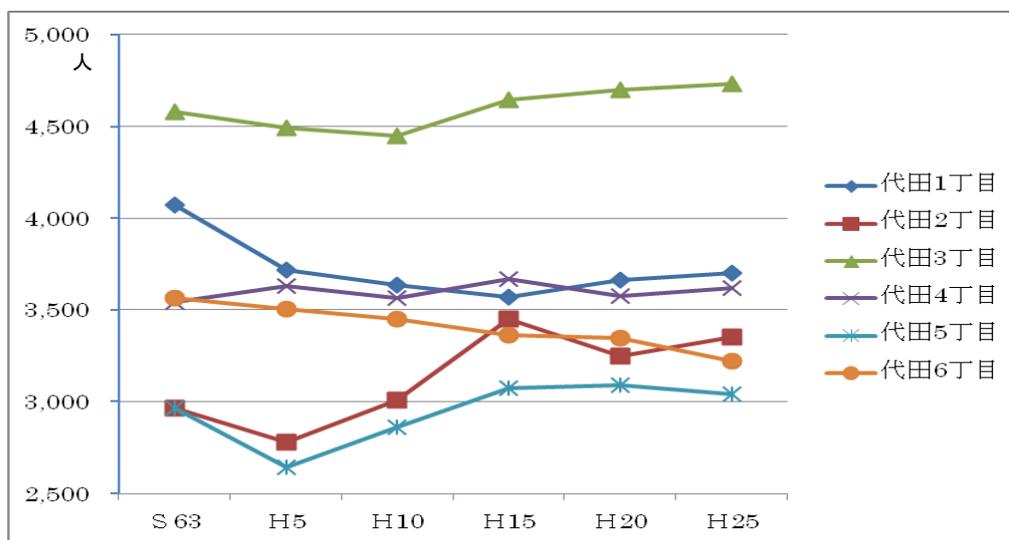
2. 代田地域の現況 (基礎データ)

2-1. 人口・世帯

代田 1・3・6 丁目では昭和 63 年～平成 10 年にかけて人口は減少していますが、代田 2・5 丁目では平成 5 年～15 年にかけて大きく増加するなど、町丁目によって変動が異なります。平成 15 年以降のここ 10 年では地域全体として人口は安定しています。

世帯数についてはあまり変動しておらず、平成 15 年～25 年まで北沢地域全体では 5.3% 世帯数が増加したのに対し、代田地域全体では 3.2% の増加にとどまっています。

代田地域の町丁目
別人口変動



資料：住民基本台帳(各年1月1日)
※平成25年のみ
2月1日)

2-2. 建物や道路

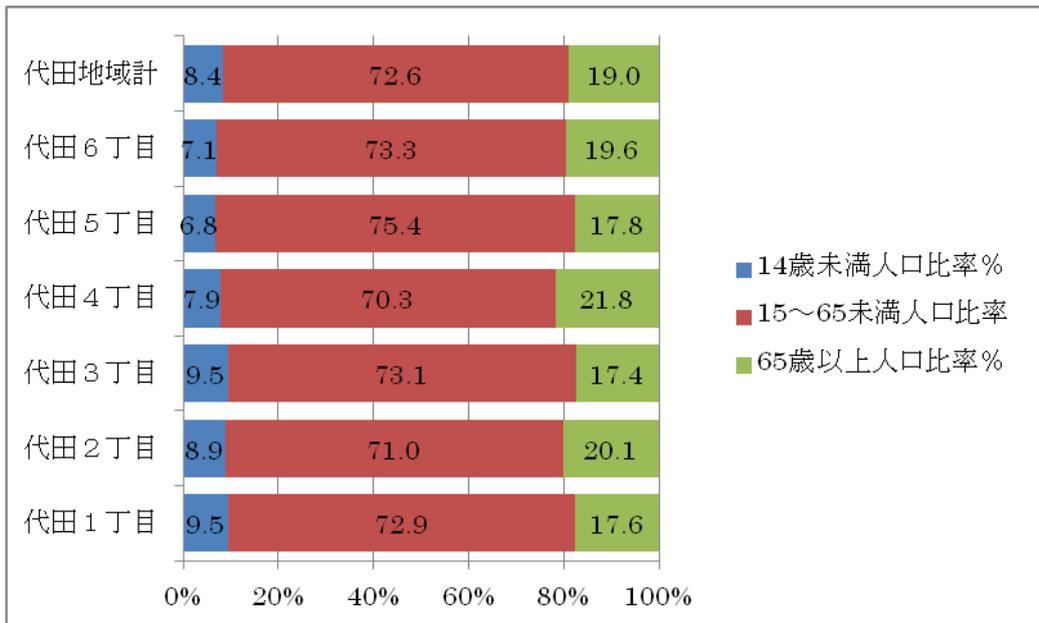
建物については、棟数密度や戸数密度が代田 5・6 丁目で高く、老朽住宅の割合も高くなっています。道路については、2・5・6 丁目は道路率が低く、狭い道路が多いことを示しています。

	代田1丁目	代田2丁目	代田3丁目	代田4丁目	代田5丁目	代田6丁目	代田地域計	世田谷区計	備考
面積 m ² ()は羽根木公園面積除外	200,016	198,759	288,667	294,264 (224,982)	181,870	196,314	1,359,890	58,084,000	世田谷区資料
人口	3,702	3,351	4,733	3,618	3,040	3,219	21,663	860,883	
世帯数	2,118	1,893	2,679	2,083	1,819	1,994	12,586	448,000	
人口密度 人/ha ()は羽根木公園面積除外	185.0	168.6	164.0	123.0 (160.8)	167.2	164.0	159.3	148.2	平成25年 2月1日住 民基本台 帳
65歳以上人口比率%	17.6	20.1	17.4	21.8	17.8	19.6	19.0	19.0	
14歳未満人口比率%	9.5	8.9	9.5	7.9	6.8	7.1	8.4	11.4	
20歳代人口比率 %	17.1	16.8	15.8	15.5	18.0	19.0	16.9	12.5	
建物総棟数 棟	803	799	1,023	863	792	818	5,098	171,642	
棟数密度 棟/ha ()は羽根木公園面積除外	40.2	40.2	35.4	29.4 (38.4)	43.5	41.7	37.5	29.6	平成 23 年土地利 用現況調 査
住宅総戸数	2,283	1,968	3,114	2,387	2,008	2,200	13,960	465,513	
住宅戸数密度戸/ha ()は羽根木公園面積除外	119.2	98.9	107.8	81.2 (106.1)	110.3	112.2	103.4	80.1	
老朽建物棟数割合%	64.5	56.8	64.1	62.2	64.9	68.5	63.5	-	
道路面積の割合% ()は羽根木公園面積除外	21.0	14.2	21.1	15.1 (19.7)	14.5	14.7	17.0	17.3	

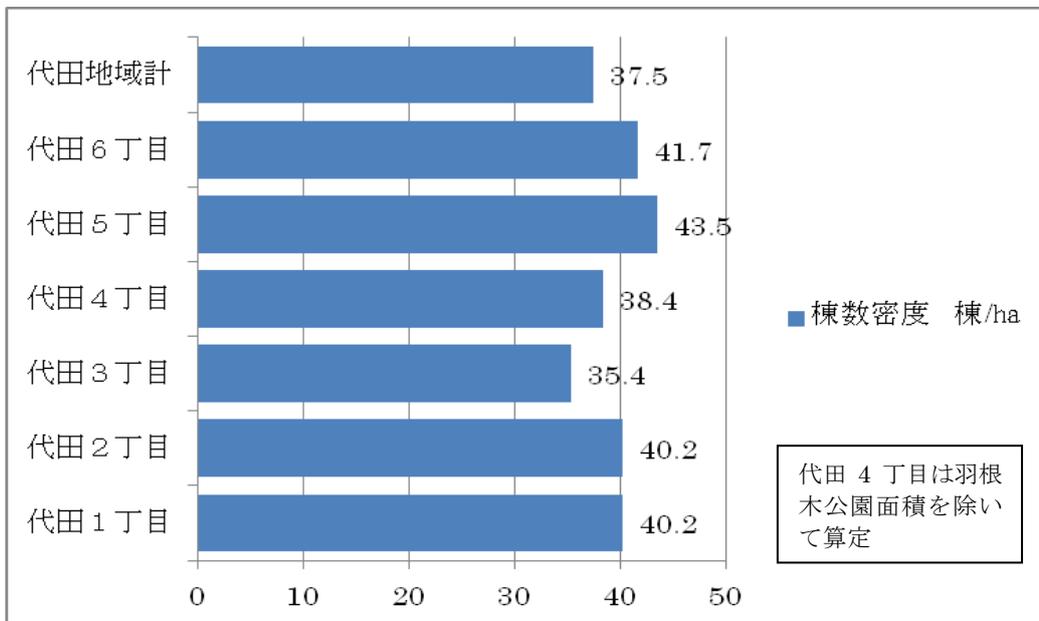
※老朽建物：概ね法定耐用年数*の2/3以上を経過した建物

*〔主な住宅用建物の法定耐用年数〕木造モルタル造 20年、木造 22年、軽量鉄骨造 27年、重量鉄骨造 34年、鉄筋コンクリート造 47年

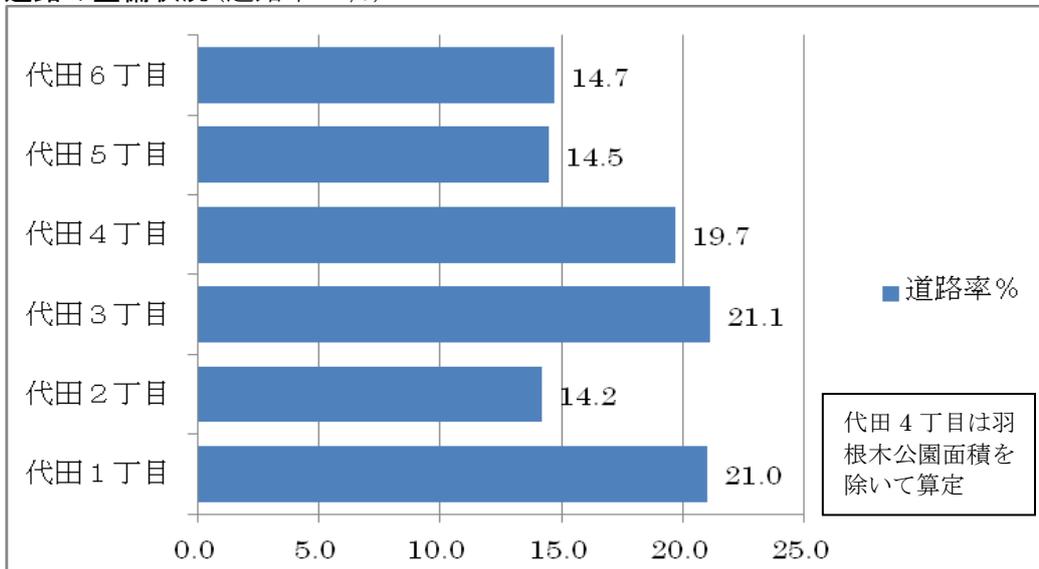
年齢別の人口構成

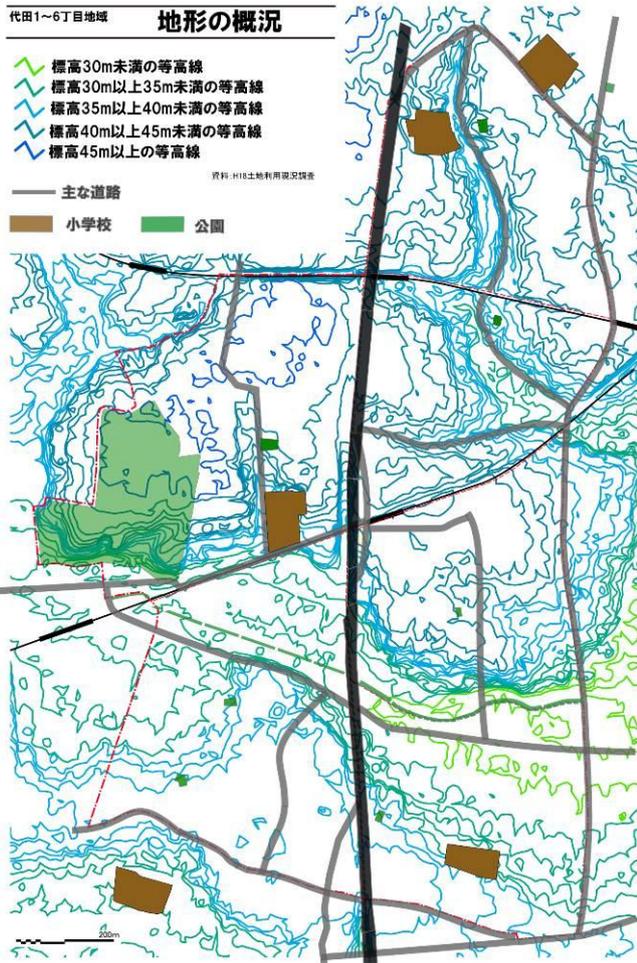


建物の密集度合 (棟数密度 棟/ha)

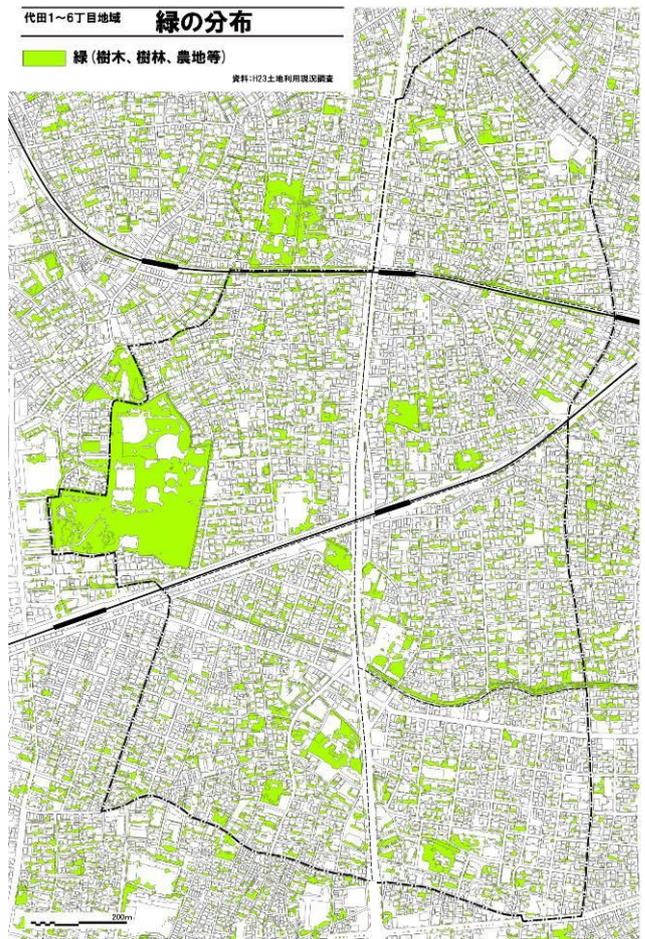


道路の整備状況 (道路率 %)

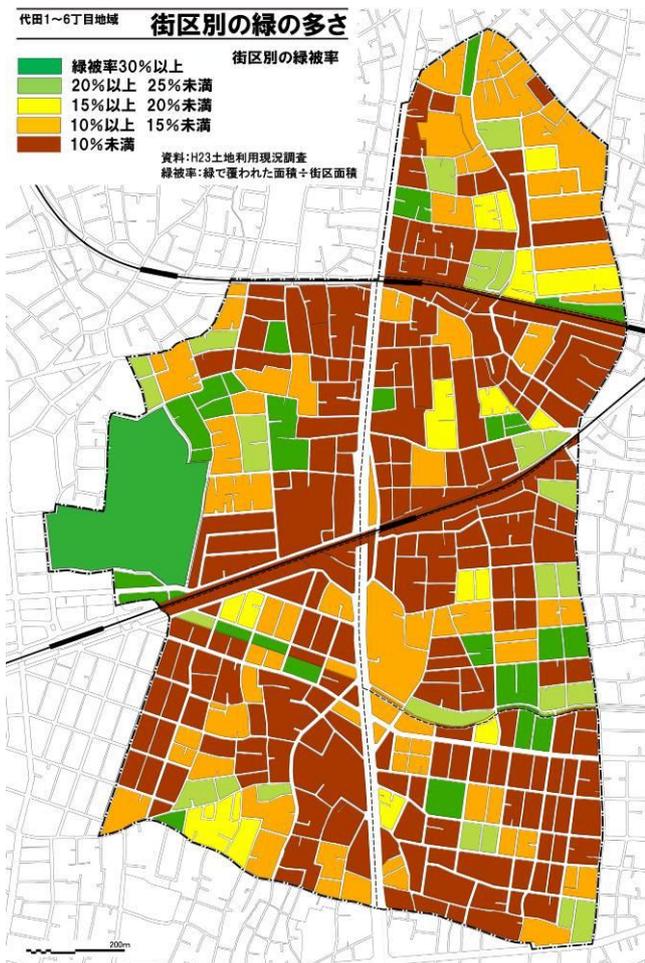




資料：世田谷区土地利用現況調査 平成 23年 世田谷区



資料：世田谷区土地利用現況調査 平成 23年 世田谷区

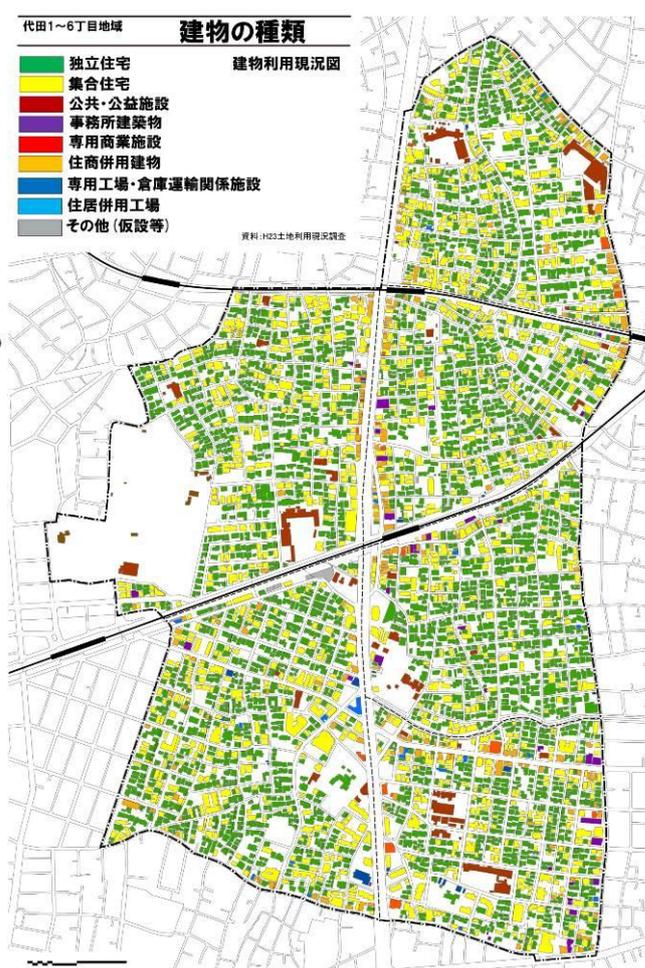
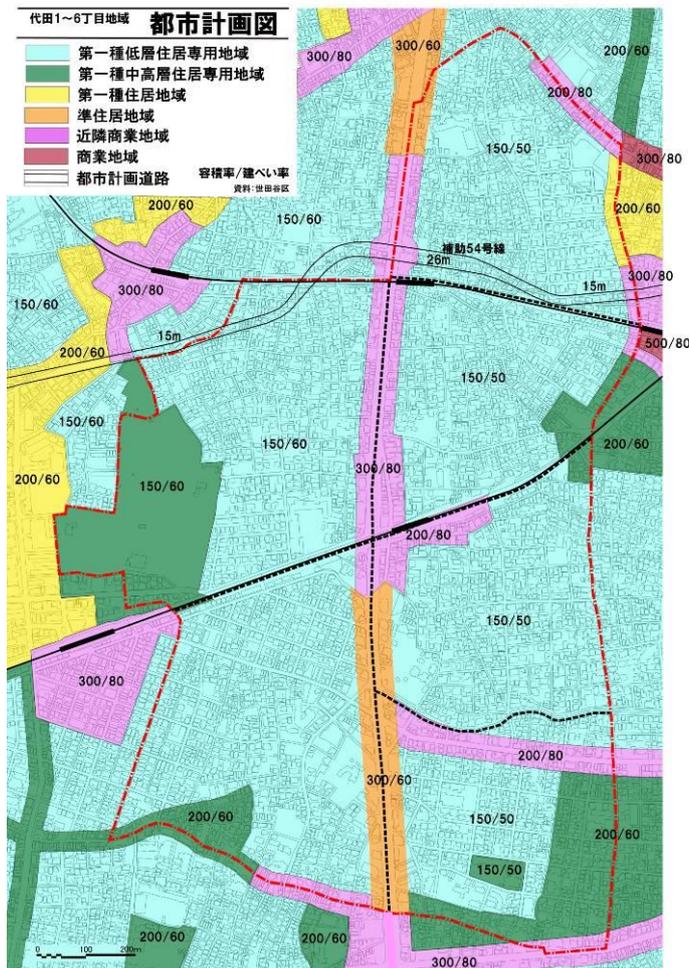


資料：世田谷区土地利用現況調査 平成 23年 世田谷区



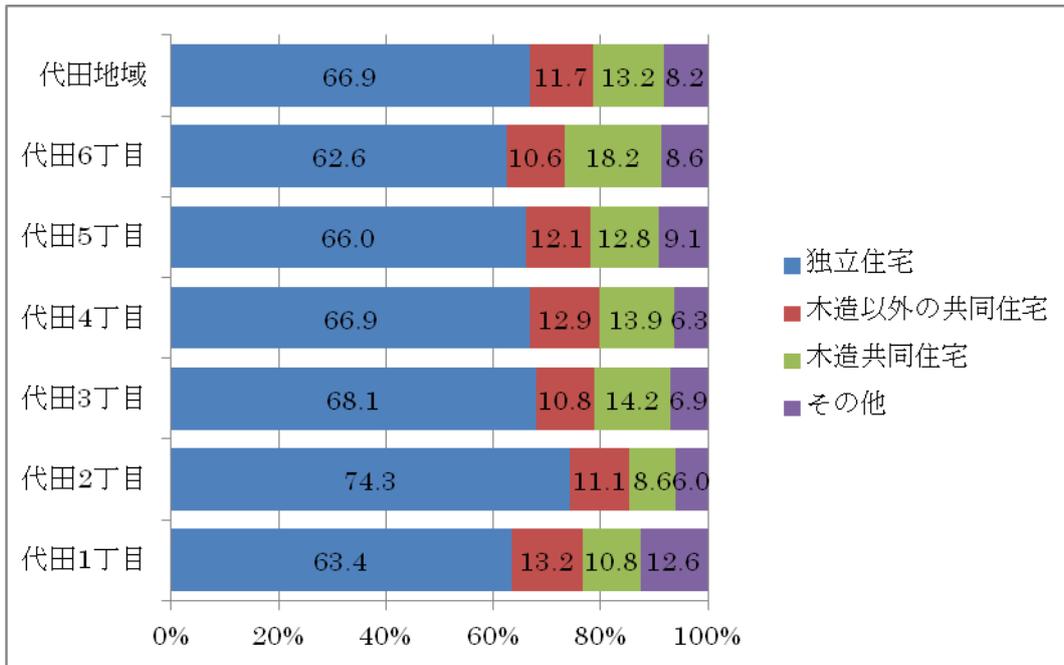
公園・広場の名称	面積	開設年度	主な設備
羽根木公園	79,651 m ²	昭和 31 年 10 月	水道、トイレ、防火貯水槽 40t、100t、マンホールトイレ
代田南広場	329 m ²	昭和 49 年 3 月	水道、防火貯水槽 40t
代田2-14遊び場	245 m ²	平成 7 年 4 月	水道、防火貯水槽 40t
代田広場	514 m ²	昭和 28 年 3 月	水道、防火貯水槽 40t
すみれ公園	457 m ²	平成 8 年 3 月	水道、防火貯水等 40t、マンホールトイレ
ひだまり公園	843 m ²	平成 14 年 3 月	水道、防火貯水槽 40t、100t
代田5丁目公園	413 m ²	平成 3 年 3 月	水道、トイレ、防火貯水槽 100t
代田北広場	521 m ²	昭和 49 年 3 月	水道、トイレ

資料：世田谷区



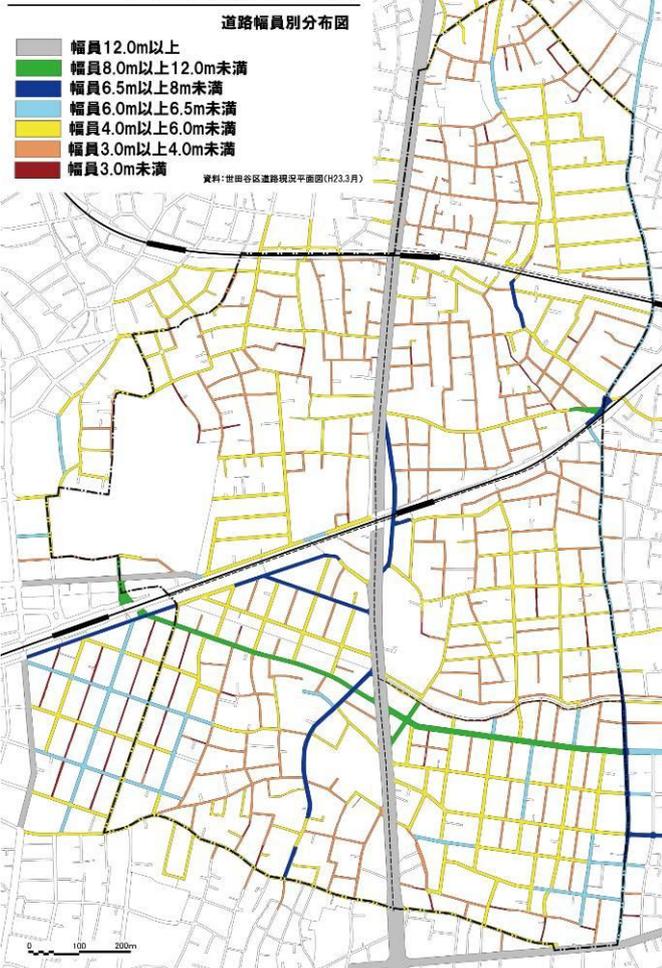
資料：世田谷区土地利用現況調査 平成 23 年 世田谷区

建物の種類別の棟数割合 (用途別の建物棟数比率 %)



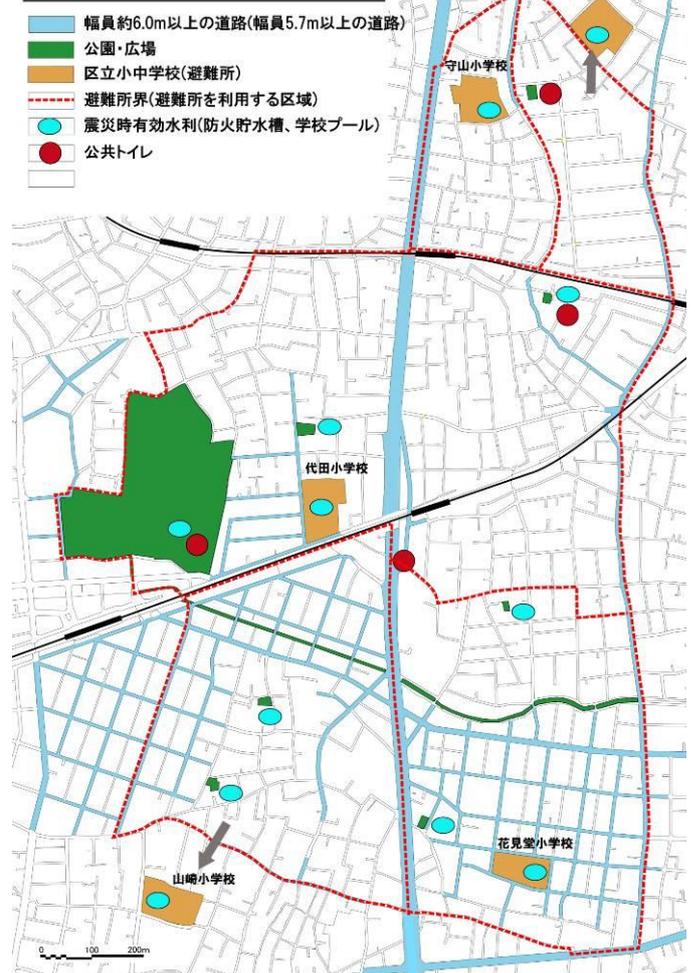
資料: 世田谷区土地利用現況調査 平成 23 年 世田谷区

代田1～6丁目地域 道路の現況 (道路幅)

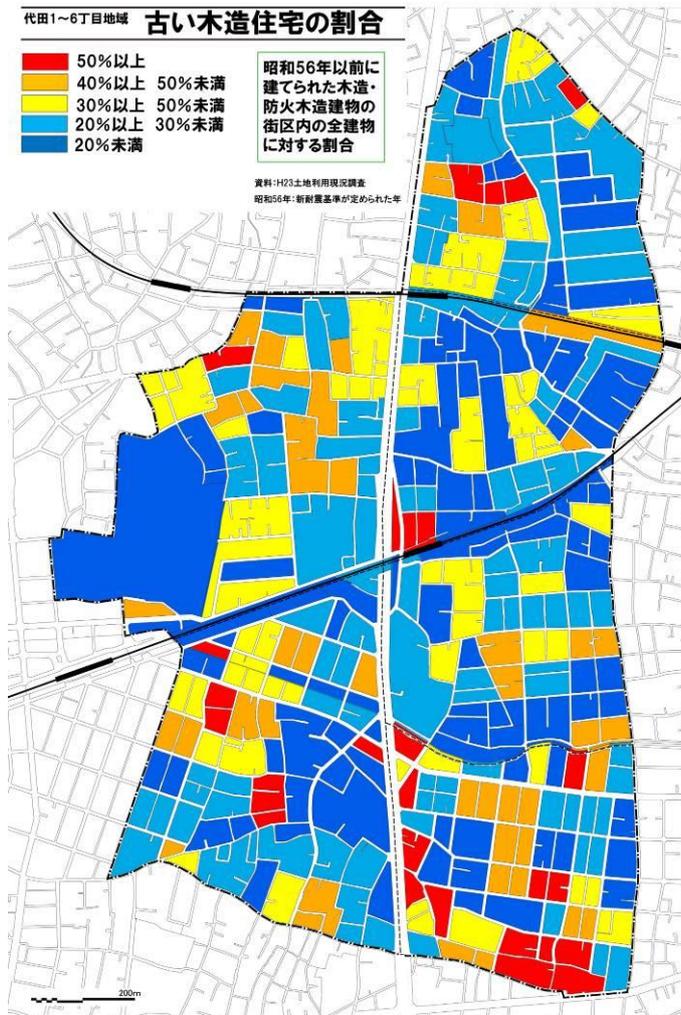


資料: 世田谷区

代田1～6丁目地域 地区防災に関する状況



資料: 世田谷区



資料：世田谷区土地利用現況調査 平成 23 年 世田谷区

3. 代田地域の街づくりの課題

□防災上の課題

- ①消防活動困難区域の解消
- ②防災の拠点としての公園の充実
- ③建築物の不燃化など延焼防止対策

□道路交通の課題

- ①主要な生活道路の課題
- ②生活道路の課題
- ③世田谷代田駅周辺の交通対策

□住環境に関わる課題

- ①宅地の細分化に対する対策
- ②住宅密集区域の防災街づくり

□公園・広場に関わる課題

- ①代田 5・6 丁目を中心に公園・広場の充実

3-1. 防災上の課題

① 消防活動困難区域の解消

都市防災上の基準のひとつに、消防車の進入が可能で路上で容易に活動できる幅員 6m 以上の道路から、200m のホース延長で到達可能な概ね 140m の範囲を消防活動に支障が無い範囲と考え、それ以遠の区域を「消防活動困難区域」とする目安があります。

その基準で見ると、代田地域は、2・5・6 丁目には幅員 6m 以上の道路がほとんどなく、消防活動困難区域が中央部分に広がっています。対照的に 1・3 丁目は、4m 未満の狭い道路が多い区域もありますが、消防活動困難区域はほとんど見られません。

② 防災の拠点としての公園の充実

公園・広場は、震災時の避難・救護活動、消防活動の拠点、緑化による延焼防止など多様な効果を持つ拠点です。環七の東側の区域では全般に公園が不足しており、特に 5・6 丁目は充実すべき区域も広がっています。

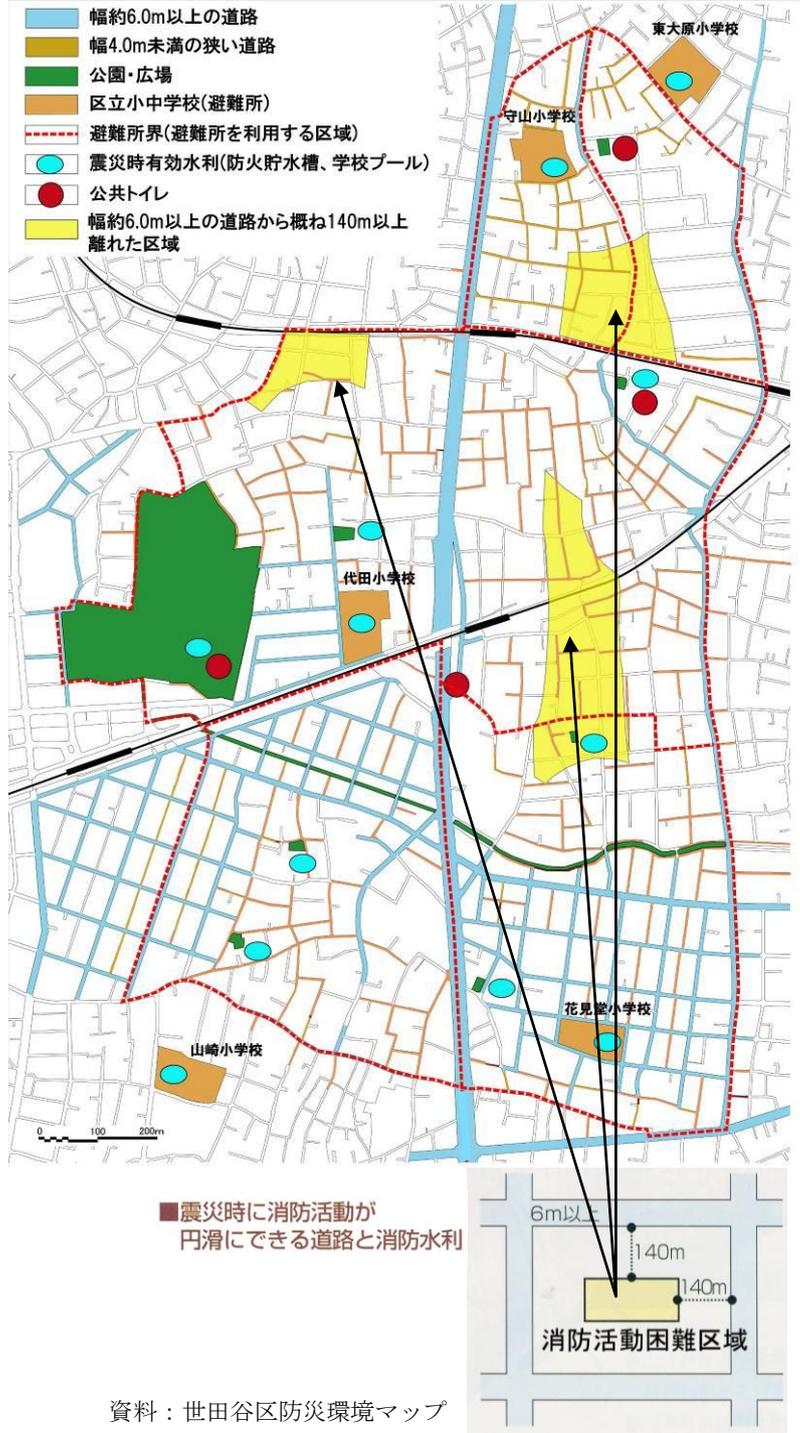
③ 建築物の不燃化など延焼防止対策

古い木造住宅が密集する区域(耐震上問題が多いとされる「昭和 56 年(1981 年)以前の古い耐震基準で建てられた木造建物の割合」が 40%以上の区域)が、1・3・5・6 丁目に存在しており、燃えにくい建物や、耐震化の推進も課題となります。

広域避難場所の指定

震災時の火災延焼などにより、自宅や一時集合所(学校・公園等)が危険な状況になった場合は、区内外に 22箇所指定してある広域避難場所(大規模空地)に避難します。代田 3・4 丁目は「羽根木公園一帯」が避難先に指定されていますが、環七の内側の代田 1.2.5.6 丁目は「駒場東大・駒場野公園一帯」が避難先になっています。〔世田谷区地域防災計画〕より

防災上の課題図



資料：世田谷区防災環境マップ

参考：代田地域に関する広域避難場所



3-3. 住環境に関わる課題

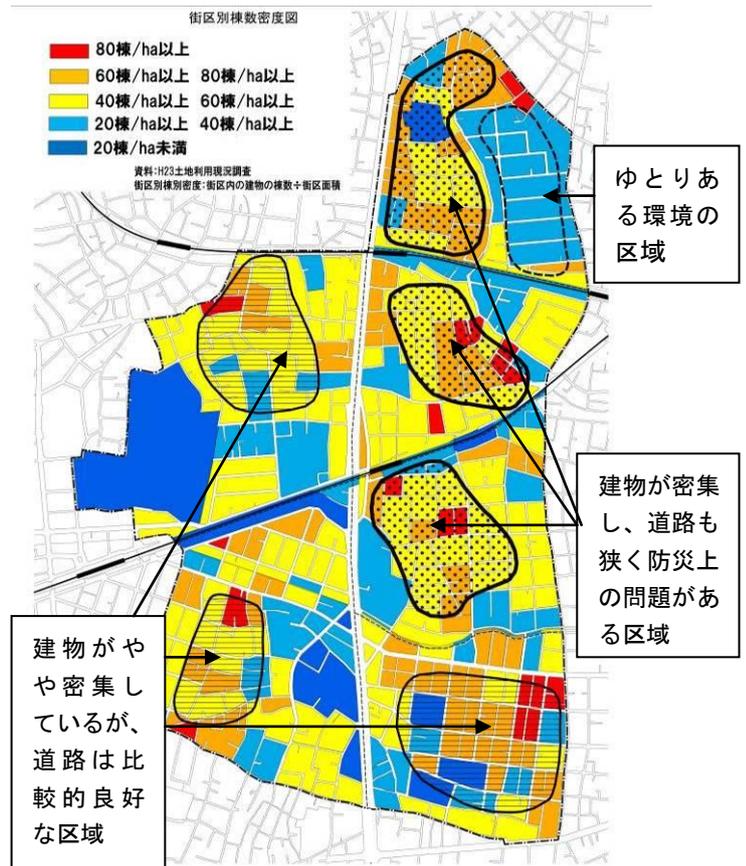
① 宅地の細分化に対する対策

徐々にではありますが、宅地の細分化・建て込みが進行しています。宅地が細分化し、小規模な木造住宅が密集することにより、住宅の採光条件が悪くなります。さらに、延焼の危険性が高まり、防災上の問題を顕在化させます。宅地の細分化に何らかの対策が必要となっています。

② 住宅密集区域の防災街づくり

幅員 4m 未満の道路では、震災時に耐震性のない建物やブロック塀等が道路上に倒壊し、道路が閉塞されることにより、避難路として通行できない危険性があります。建物の不燃化と共に狭い道路の拡幅や建物や塀の耐震化など、防災街づくりの取り組みも必要です。

住環境の課題図

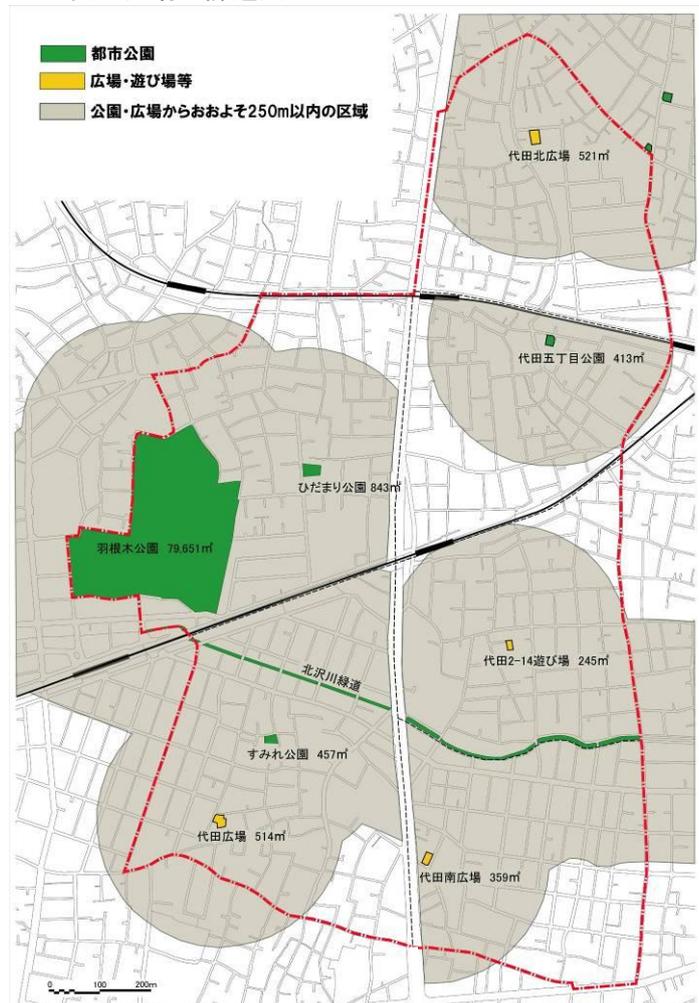


3-4. 公園・広場に関わる課題

○代田5・6丁目を中心に公園・広場の整備

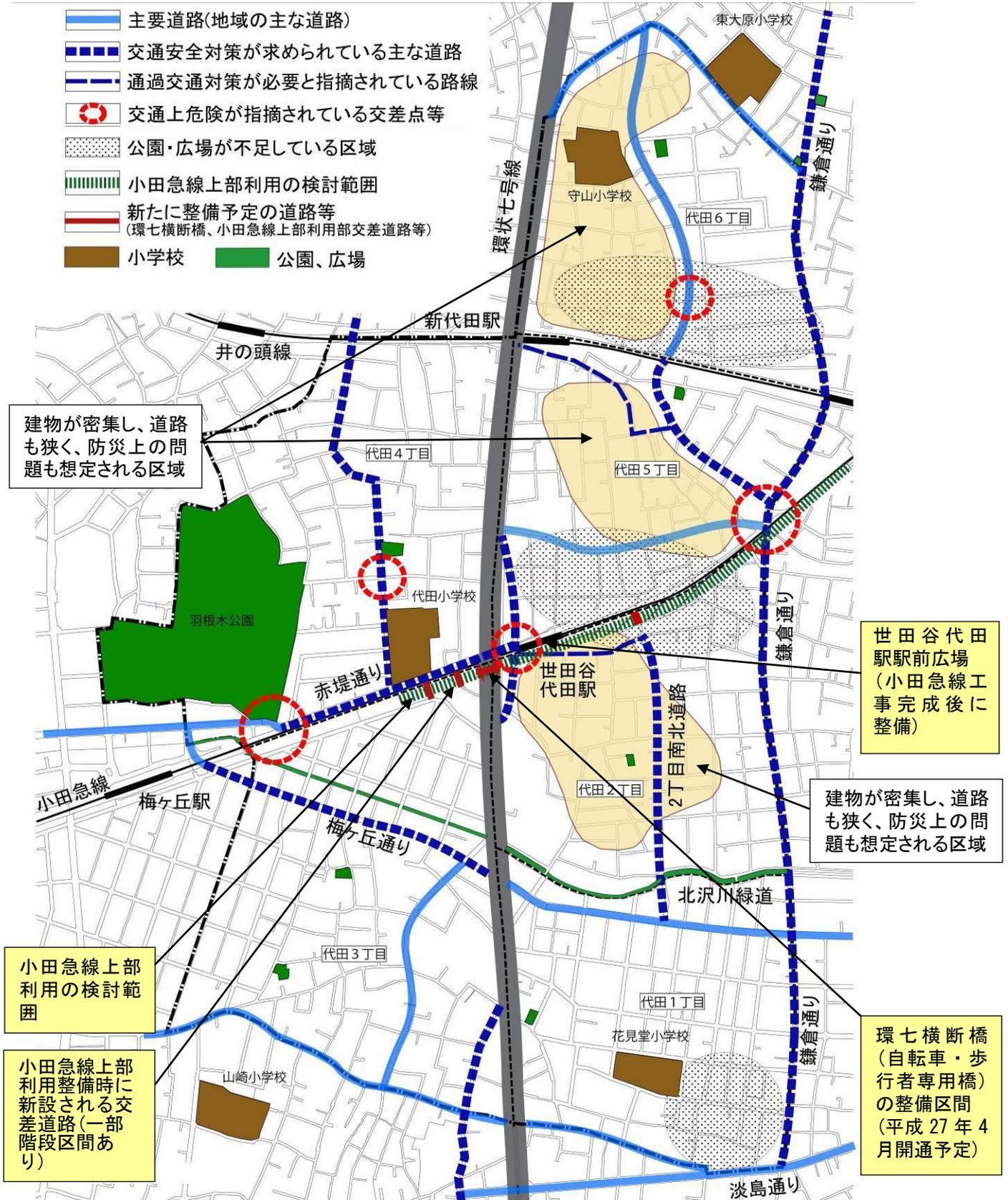
幼児や高齢者の足で 5 分程度の距離 250m で公園利用圏を想定すると、環七の東側の5・6丁目では利用不便区域が比較的大きく広がっています。

公園・広場の課題図



3-5. まちづくりの課題図(まとめ)

代田地域の街づくりを検討するにあたり、ご紹介した街づくりの現況や課題と、過去に行ったアンケートやヒアリング調査などで地域のみなさまからご指摘を受けている箇所を、地図上にまとめました。



< お問い合わせ先 >

世田谷区北沢総合支所街づくり課

〒155-8666 世田谷区北沢 2-8-18 北沢タウンホール 6階
電話：03-5478-8031 FAX：03-5478-8019